

鍛冶屋敷遺跡で古代の役所跡を発見

～大仏造立との関連も～



■発見された建物跡（白線内が建物の柱位置）

5月中旬から8月下旬にかけて試掘調査をおこなった鍛冶屋敷遺跡（信楽町黄瀬）で、役所跡と考えられる3棟の掘

立柱建物の一部を発見しました。位置や内容から紫香楽宮もしくは甲賀寺に関わる役所跡だった可能性が高く、甲賀寺と紫香楽宮を結ぶ平坦面に計画的に施設群が配置され、多くの役所が立地していたことが推測できるようになりました。

る鍛冶工房であったことがわかっていきます。当調査地はその西端にあたり、建物方位が宮町遺跡の中心建物の方向とも一致することから、紫香楽宮もしくは甲賀寺に関連する役所跡と考えられ、同一の建築設計画のつとより建築されたものとみられます。

調査面積は約350㎡で、発見された掘立柱建物のうち2棟の東西棟建物は東端で柱の位置がそろっており、建物の桁方向の長さも概ね60尺（17・8m）で同じになると考えられます。また、南北方

発見された建物は、中央3間分に扉がつく構造と考えられることから、役所などに代表される事務的施設と判断でき、整然とした配置から儀礼的な機能もあわせもつ役所と推定できます。

大仏造立に関係する儀式をおこなった可能性も考えられ、聖武天皇が国中の銅を尽くし、大山を削り、造ろうとした大仏造立事業の一端を垣間見ることができると重要な発見となりました。

向に約60尺を隔てて配置されることから、これらの建物は60尺四方の空間に計画的に配置されていたと考えられます。

鍛冶屋敷遺跡は平成12（1999）年に新名神高速道路建設に伴って調査が行われ、甲賀寺に係す

問い合わせ
歴史文化財課
埋蔵文化財係
☎86-8026
FAX 86-8216

介護予防をはじめましょう!

◎軽度認知症教室のお知らせ

- 「認知症になったら何もできなくなってしまう。」と思いませんか？たとえ認知症になってもその方が「できること」が全て無くなるわけではありません。特に、認知症の程度が軽度の場合は、少しの手助けをするだけで、自立して生活することが可能です。認知症の進行速度を緩めることで自立した生活が長く続けられます。
- 市の事業として実施している軽度認知症教室では、それぞれの参加者の「できること」が増やせるよう支援します。このために、ご本人がどんなことを望んでおられて、どんなことが心配に思うのかなどをじっくりお伺いします。
- 大事なことは、参加者が「私はまだまだこんなことができる。」という自信を持ってもらえることです。この自信を持つ事で少し難しくなってきたことにも取り組み、やり遂げることができるようになります。
- 軽度認知症教室では、参加者の方が持つておられる力を見極め、役割を持ってもらったり、楽しんで取り組める活動に参加していただいたりします。ご本人がそれまで楽しんでし

ておられたことや自負をもってやり遂げられた事を生かすことが大事です。

- プログラムの一例として料理プログラムを紹介します。
 - ①メニューを決める話し合い。（意見を出し合い、料理の本などを見ながら決める。）
 - ②調理方法の確認（手順を書き出し、時間配分や役割分担、材料や調理器具など準備物品の確認）
 - ③調理（計画した手順に沿って実施。計画表で手順を確認しながら行う。）
 - ④反省会（試食後感想を話し合う。手順や出来栄について意見を出し合う。）



※教室への参加等に関することは、地域包括支援センターにご相談ください。

問い合わせ
水口地域包括支援センター ☎65-1170 FAX63-4591
土山・甲賀地域包括支援センター ☎88-8136 FAX88-6557
甲南・信楽地域包括支援センター ☎86-8034 FAX86-5974